opusdei.org

属人区長の手紙 (2015年7月)

今回、ハビエル・エチェバリア師は、各々の家庭内、他の皆が信仰とキリスト教的生活において成長するために助けを与えることの大切さを思い出させています。

2015/07/07

愛する皆さん、イエスが私の子供た ちをお守りくださいますように!

マリア年が進むにつれ、家族に関するシノドスのための祈りに拍車がか

聖母の執り成しは決定的です。信頼を込めて聖母により頼み、7月16日の祝日に備えましょう。カルメル山の聖母の記念日は、天への願いを通してといるよう改めて促します。ことしての助けと配慮で「聖なる山、するとで変励しています。

聖ヨハネ・パウロ二世は、家庭での 要理教育が絶対に必要だと強調していましたが、特に昨今は そうです。今は多くの所で、「反育教的な法律がつくられ、宗教教は 邪魔しているほどです。あるいは浸 不信仰が広がったり世俗主義が浸したりしている所では、真の宗教生 したりしている所では、真の宗教生 活ができないほどになっています」 [iii]。

皆、神を信頼し、楽観的に、あらゆる良くない環境、あり得る困難に関連を受けることなく、喜んでことにしまって、直域ではないではない」「iv」と言うではないのではない」「iv」と言うではないのではない。「神は常に同じ神でののだ。信仰のようではないだ。信仰のようは、聖書に見られるだろう」「v」。

家庭内ではまず両親がこの課題に取 り組むべきです。子供たち一人ひと りの年齢や性格に合わせて、信仰の 深い意味やイエス・キリストの愛を 教えなければなりません。「親は子 どもに生活のあかしを通して最初の 福音宣教者となるのです。子どもと ともに祈り、神のことばを子どもと 共に読み、キリスト教の手ほどきを 通して『キリストのからだの教会』 へと子どもを導くことによって、文 字通り親となるのです。この意味で 親は単に身体的生命の生みの親とし てだけでなく、キリストの十字架と 復活からあふれでる聖霊によって新 たにされた生命の生みの親にもなり ます | [vi]。

聖ホセマリアが世界中の既婚者を励まし家族に活気を与えたことを感謝する言葉が後を絶ちません。ある時、聖書の言葉を引用してこう語りました。「Dícite iusto quóniam bene (イザヤ3,10参照)言え、主に従

う人は幸い。皆さんは全てをよく やっています。動物のようにではな く子供たちを受け入れたからです。 皆さんは、霊魂があり、死の向こう に命のあること一永遠の幸せかるで の罰一を知っているからです。そも でも幸せであるようにと望んで ます。あなたたちに神の祝福があ ますように!」[vii]。

また他の家族、特に年長の兄弟姉妹、祖父母などにも、年下の家族でにも、年下の家族では、年下の家族では、年子の家族では、年代を高めるように手伝う特別の家はで、大きを根づかせようとしているので、一人弟として仕えるようのはなりでは、これは私たちにできる重がです。

しかし、キリスト教的形成を与えて いる家庭やその他の所で、信者の信 仰を弱めたり失わせたりする胚が 時々はいりこんでいることを忘れて はなりません。両親は責任を持っ て、不安になったり意気消沈したり せずに、信仰を伝える喜ばしい義務 を果たすよう努めなければなりませ ん。正しい教理の基準で教育をして いる学校に子供を委ねるだけでは不 十分です。また、子供の年齢に見 合ったカトリック的な形成を提供し ている場所に出はいりしていること で満足していてはなりません。これ は全て、たいへん役に立つ素晴らし いことですが、しかし、何といって も子供の教育の第一の責任者はいつ も両親に他ならないのです。

創立者は、この点に関する質問にこう助言するのが常でした。「皆さんの子供たちの信仰を二つの点で守らなければなりません。第一に、皆さんのカトリック者としての振る舞

い、つまり模範です。次に、要理を教えることです。それにはカテキズムの復習に努めること(…)。子どもたちは厄介者ではありません。正しい教えで育てて行くことです。こうして彼らの信仰を守ることができるでしょう」[viii]。

子供たちはごく幼い時から家庭内の 出来事の証人です。両親が、教えて いることに沿って振る舞っているか どうか、他の人のために喜んで犠牲 になっているかどうか、お互いの欠 点に対して忍耐をもって、理解して いるかどうか、弁解しゆるしている かどうか、また必要なら愛情を込め て、しかしはっきりとたしなめてい るかどうかということを、すぐに感 知します。要するに創立者はこう説 明されたのです。「家庭内の出来事 は、良きにつけ悪しきにつけ子供た ちに影響します。良い模範を与え、 信心生活を隠したりせず、清らか で、潔い振る舞いをするように努め

なさい。そうすると、子供たちはそれに倣い、皆さんの円熟期やおま子はの一覧されて、皆さんであるではないではないではないではないではない。というではないないはない。というではないはない。というではないが自分にしまいます」「ix」。

てくれることを確認することができるでしょう。「わが子よ、あなたの心が知恵を得れば、私の心は喜び祝う。あなたの唇が公正に語れば、わたしのはらわたは喜び躍る」[x]。

教皇フランシスコはこの聖句につい てコメントし、話しつがれます。

「父親が人生で本当に大切なものを わが子に伝えたと認識した時の誇り と感情を、これほどよく表している ことばは他にないでしょう。人生で 大切なものは、賢明な心です。(…) 父親は、この遺産を手渡すには、何 が必要なのかよく分かっています。 自分がどんなに親しく、優しく、確 固たる姿勢をとるべきか分かってい ます。しかし、子どもたちがその遺 産を喜んで受け入れるとき、父親は どんなに大きな慰めと報いを得るこ とでしょう。それは、すべての苦難 を打ち消す喜びです。その喜びはあ らゆる誤解を打ち砕き、あらゆる傷 をいやします | [xi]。

このような配慮がなされたとしても ―とりわけある国々では― 思春期や 青年期にさしかかると信仰を失って しまったかのような振る舞いをする 子供が少なからずいます。信仰を放 棄したというよりも、信心生活を怠 けたり、ないがしろにしたりするの です。学校や大学の雰囲気や友人た ちの持つ価値観は対照的で信仰の行 為は外面的な強制であるかのように 考えるからです。それに対する両親 たちやキリスト信者の友だちは、ま ず彼らのために一層熱心に祈りま す。そして愛情を込めて彼らに接 し、理解しようと努めます。悩みを 打ち明けた母親に聖ホセマリアが語 りかけました。「キリスト信者の母 親としてあなたは最善を尽くし、た いそう良い結果をもたらしました。 祈りです。聖母により頼みなさい。 母親のことをよくご存知です。神の 御母であられ、あなたと子どもさん たちの母、そして私の母なのですか ら。

それから、子供たちのために良い友だちを探すように努めない(・・・)。 母親が注意し過ぎてはなりませいるように登れているように受けるなりになり得るかられて、対になり得るがでしょうでしょうでしなたでしょうでもなたの祈りに支えられて、他のどもたちが愛情を持ってあなたの子しています」[xii]。

す。母親は娘たちと話すように。時 には逆かも知れませんが。皆さんに は彼女たちの心理状態がよくわかる はずです。正義に即して振る舞い、 子ども一人ひとりに適した接し方を すべきです。語り合い、彼らの良い 友だちになりなさい。そうすると、 彼らのことがよく分かるようになる でしょう。その心には 一ひそかにと は言え一 あなた方と同じ信仰が息づ いているのですから。多分その心に は、愚にもつかないつまらないこと が山積みされているはずです。ま ず、ゆるしの秘跡に与るようにする ことです。きっとよくなっていくで しょう [xiii]。

今朝のミサはブルゴスの聖ホセマリアに捧げられた教会でたてます。創立者がスペインの市民戦争中マドリードを逃れて使徒職の再開を果たした町です。日々、世界中の霊的実りのため、新しい所へ進展の準備のため、多くの国々で、教会と人々へ

の奉仕のため繰り広げられている若者との諸活動のために祈りましょう。その若者たちのための祈りに、彼らの家族も含めましょう。

愛するドン・アルバロに、私たちが 日ごとにより忠実になるよう助けを 願いましょう。

心からの愛を込めて祝福を送りま す。

皆さんのパドレ

†ハビエル

ローマ、2015年7月1日

[i] 教皇フランシスコ、2015年3月25日一般謁見の講話。

[ii] ローマミサ典書、カルメル山の 聖母の記念日の集会祈願。 [iii] 聖ヨハネ・パウロ二世、1979年 10月16日使徒的勧告Catechesi tradendæ68番。

[iv] イザヤ 59,1.

[v] 聖ホセマリア、『道』586番。

[vi] 聖ヨハネ・パウロ二世、1981年 11月22日使徒的勧告「家庭」39番。

[vii] 聖ホセマリア、1972年10月18日 家族の集まりでのメモ。

[viii] 同上

[ix] 聖ホセマリア、1972年11月12日 家族の集まりでのメモ。

[x] 箴言23,15-16.

[xi] 教皇フランシスコ、2015年2月4日一般謁見の講話。

[xii] 聖ホセマリア、1972年10月22日 家族の集まりでのメモ。 [xiii] 聖ホセマリア、1972年11月28 日家族の集まりでのメモ。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/zokujinkuchouno-tegami-2015-7/(2025/12/13)